

やさらぎ通信

第 85 号（平成 29 年 12 月 1 日） 発行：大阪急性期・総合医療センター

師走(しわす)



(JR天王寺駅構内のクリスマスツリー)

<目次>

季節を愛でる	・・・P.1
今月・来月の催し	・・・P.2
管理栄養士のコーナー	・・・P.5
今月のきらりさん	・・・P.6
NEWS	・・・P.7

掲示板	・・・P.8
地域の医療機関の皆様へ	・・・P.10
今月の風景	・・・P.11
編集後記	・・・P.12

私たちの病院には、「ほめほめカード」なるものが存在します。ピンク色の可愛いカードです。患者さんや同僚への対応、チャレンジの姿勢など、職員同士が互いの良い行いを見つけ、認め合うカードです。素晴らしいと思った理由をこのカードに書きます。カードは一旦1ヶ所に集めて集計され、多くのカードを贈られた者や他の職員の模範となる行いと認められた者は、年度末に表彰を受ける仕組みとなっています。クリスマスには集まったカードを対象の職員に配るのですが、この時、総長や病院長、看護部長等の幹部職員が、サンタクロースやトナカイに扮して各部署を回り本人に手渡します。素敵なクリスマスプレゼントです。記念撮影には、近くにおられた患者さんが一緒にお入りくださることもあります。褒める側も褒められる側も心温まるひと時です。

この季節、音楽で心温まるひと時を過ごされる方も多いのではないのでしょうか。年末に行われるクラシックコンサートでは、ベートーベンの交響曲第9番とヴィヴァルディのヴァイオリン協奏曲集「四季」がよく演奏されます。「四季」の協奏曲第1番「春」はあまりにも有名ですが、協奏曲第4番「冬」もおススメです。第1楽章では、厳しい寒さのために歯がガチガチと鳴る様子が表現されていますが、第2楽章は、ラルゴ（ゆるやかにの意味）と呼ばれ、室内で暖炉にあたりながら過ごす穏やかで平和な時間が表現されています。家族や親しい人と鑑賞したい楽曲です。

今月ご紹介する俳句は、家庭を大切にされた女性でクリスチャンの俳人、杉田久女の一句です。降誕祭は、クリスマスのこと。雪道を歩いていると、クリスマスを祝う家の明かりが見え、寒い季節ながらも暖かな部屋で楽しく過ごす家族の姿を感じられたのでしょう。小学4年生までサンタクロースの存在を信じていた私は、サンタクロースの正体を知ってからしばらくは、毎年欲しいものをおねだりしていました。あの頃は、何も要らないから長生きしてねと心から願う日が来るなど想像もしませんでした。今年も年老いた両親と一緒にクリスマスケーキをいただけそうです。

近ごろの趣向を凝らしたクリスマスケーキも楽しみの一つですが、12月になると思い出す和菓子が有ります。「雪餅」です。作られるお店によって違いますが、私は黄身餡をつくね芋で作られたきんとんで包んだものが好きです。絶妙な甘さともっちりとした食感が滋味です。雪に見立てた白く繊細なきんとんは、職人さんの技が光ります。

いくつになっても楽しみなクリスマス。大晦日には、心静かに除夜の鐘を聴き煩悩を払い、年が明けると一年の無病息災を願って初詣をする。日本人特有の宗教観と言われますが、キリスト様も、仏様も、神様も、きっと苦笑いしながら、こんな私たちを温かく見守って下さっている事でしょう。

来年も、私たちの病院を選んでくださる皆さまのご期待に添えますよう職員一同励んで参ります。どうぞ、良いお年をお迎えください。



今月・来月の催し

【絵てがみ講習会】

日 時 12月8日(金) 午後2時～4時
場 所 本館1階 アトリウム



【府民公開講座「お教えします、『がん』のこと」】

日 時 12月9日(土) 午後1時30分～3時(午後1時開場)
場 所 本館3階 講堂
内 容 肝臓がんにならないために、なったらどうする？

消化器内科医長 俵 誠一

私が大腸がん！？－大事に至らないための3箇条。

消化器内科医長 井上 拓也

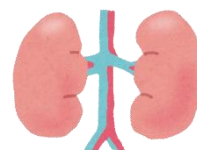
膵がんって、どんな病気？

消化器内科部長 石井 修二

参加費 無料

【平成29年度第4回 腎臓・高血圧教室】

日 時 12月13日(水) 午後2時～3時
場 所 本館3階 講堂
内 容 尿は腎臓の鏡です ～検尿異常は放置すると大変なことになります～



腎臓・高血圧内科診療主任 光本 憲祐

薬の基本

薬剤師 石川 佳澄

参加費 無料

【すこやかセミナー「麻酔のはなし～ちょっと聞きたかったこと～」】

日 時 12月14日(木) 午後2時～3時
場 所 本館3階 講堂
講 師 麻酔科部長 稲森 紀子
参加費 無料



【第 26 回病院ギャラリー企画展

『須田剋太「街道シリーズ」挿絵原画展～大阪・和歌山編～』

開催期間 12 月 18 日（月）～平成 30 年 3 月 9 日（金）

展示場所 本館 2 階 病院ギャラリー

展示作品 写真：27 作品（予定）

12 月 19 日（火）午後 1 時 30 分から学芸員による作品説明会（約 20 分）を病院ギャラリーで開催（参加費無料）しますので、ご参加ください。

なお、第 25 回病院ギャラリー企画展『日本の風景写真展』は 12 月 15 日（金）までとなっています。

本企画展は、大阪府立江之子島文化芸術創造センターのご協力を得て実施しています。

【相愛大学連携 第 76 回 外来糖尿病教室

知って得する！糖尿病との付き合い方】

日 時 12 月 19 日（火） 午後 2 時～3 時

場 所 本館 1 階 アトリウム

内 容 医者は「〇〇してほしい」と思っています

糖尿病内分泌内科副部長 藤木 典隆

検尿のおはなし

臨床検査技師 谷 恵理子

年末年始の乗り越え方

管理栄養士 笠井 香織

参加費 無料



【第 11 回 脳卒中教室 ～脳卒中は予防できる～】

日 時 12 月 20 日（水） 午後 2 時～4 時

場 所 本館 3 階 講堂

内 容 脳梗塞について

神経内科主任部長 深田 慶

脳梗塞の治療

脳神経外科医長 森 康輔

日常生活の注意点

8 階東病棟看護師 橋本 美香

リハビリテーションについて

リハビリテーション科作業療法士 庄司 克典

正しい薬の飲み方

薬剤師 吉田 紗理

栄養について

管理栄養士 谷 菜穂子

参加費 無料



【第 57 回 相愛大学連携コンサート「冬のピアノソロ演奏会」】

日 時 12 月 21 日 (木) 午後 2 時～3 時

場 所 本館 3 階 講堂

出 演 高御堂 なみ佳 氏

曲 目 リスト／ラ・カンパネラ

ショパン／ノクターン Op. 9-2

入場料 無料

リスト／愛の夢

ショパン／英雄ポロネーズ



【第 51 回 万代・夢寄席「豊来家玉之助 新春太神楽」】

日 時 1 月 9 日 (火) 午後 2 時～3 時

場 所 本館 3 階 講堂

出 演 豊来家 玉之助 氏

入場料 無料



【相愛大学連携 第 77 回 外来糖尿病教室 知って得する！糖尿病との付き合い方】

日 時 1 月 16 日 (火) 午後 2 時～3 時

場 所 本館 1 階 アトリウム

内 容 糖尿病治療その 1、SGLT2 阻害剤について

糖尿病内分泌内科医師 清水 彩洋子

運動療法について

理学療法士 長島 健太郎

ちょっと待って、その一口

管理栄養士 隈元 理香

参加費 無料

【第 58 回 相愛大学連携コンサート「声楽・チェロ・ピアノ トリオコンサート」】

日 時 1 月 25 日 (木) 午後 2 時～3 時

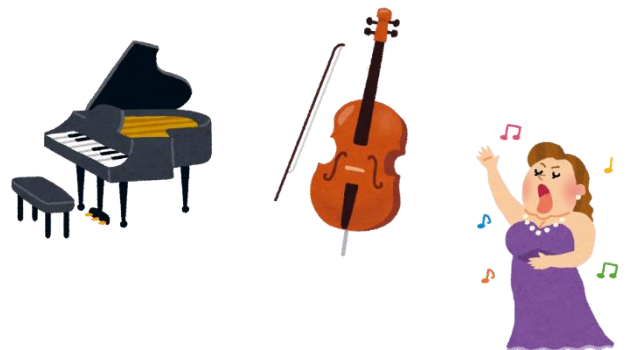
場 所 本館 3 階 講堂

出 演 日野 綾香 氏 (ソプラノ)

片岡 あづさ 氏 (チェロ)

山崎 雅世 氏 (ピアノ)

入場料 無料



【すこやかセミナー「お年寄りに多い脳の疾患」】

日 時 1 月 26 日 (金) 午前 11 時～12 時

場 所 本館 3 階 講堂

講 師 形成外科主任部長 福田 健児

参加費 無料



～ちょっとおいしい話～

冬になると根菜が旬を迎え、美味しくなります。旬の野菜は味が濃く、栄養も豊富に含まれます。今回は同じく旬の鯖とともに、鯖と蓮根の唐揚げをご紹介します。

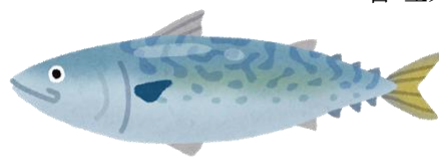
《材料》		(1 人分)		(2 人分)	
	鯖切り身	60	g	120	g
	蓮根	50	g	100	g
★	醤油	小さじ 2	杯	大さじ 1	杯
	酒	小さじ 2	杯	大さじ 1	杯
	おろし生姜	小さじ 1/2	杯	小さじ 1	杯
	おろしニンニク	小さじ 1/2	杯	小さじ 1	杯
	片栗粉	適量		適量	
	揚げ油	適量		適量	

(1 人分)

エネルギー：239kcal たんぱく質：14.0g 脂質：14.2g 食塩相当量：1.7g

- ① 鯖は一口大に切り、大きい骨を除く。
- ② 蓮根は皮を剥いて長さ 3cm 程度のくし切りにし、水にさらしておく。
- ③ 鯖と水気を切った蓮根をそれぞれ別のボウルにいれ、★の半量ずつを加えて、10 分ほど置いて下味を付ける。
- ④ ③を取り出し、片栗粉をまぶして 180 度の油で揚げる。
- ⑤ カラッと揚がればできあがり。

鯖は唐揚げにすることで、臭みが和らぎ食べやすくなります。また、蓮根は揚げることで食感の変化が楽しめます。鯖にはお好みでスダチなどを搾っても美味しくいただけます。



管理栄養士 隈元 理香

今月のきりりさん

自分の持ち味を生かした看護、すなわち“きりりと光る看護”を行っている
当センターの看護師を紹介させていただくコーナーです。

7階東病棟 矢倉 優子 看護師長

私は、7階東病棟で看護師長をしています。

7階東病棟は、泌尿器科、血液・腫瘍内科、乳腺外科、神経内科の4科混合病棟です。

泌尿器科では、例年約600件の手術を行っており、ロボット支援下手術は年間約80件、腎移植は年間約20件実施しています。その他、検査入院や化学療法、疼痛コントロールなどの緩和ケアも行っています。献腎を待つ患者さんを対象に多職種協働による「献腎移植待機患者教室」の開催、周術期から終末期までのケアと日常生活指導など、あらゆる時期の患者さんのQOL（生活の質）向上を目指し、積極的に取り組んでいます。

血液・腫瘍内科は、平成28年度に新設されました。主に悪性リンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、多発性骨髄腫などの患者さんが対象です。毎週月曜日には、医師・看護師・薬剤師でカンファレンスを開き、治療内容や方針を共有しています。

乳腺外科は、乳がんの手術目的の患者さんが主な対象です。患者さんのほとんどが女性であるため、周術期のケアだけでなく、ボディイメージの変化やセクシュアリティへのサポートも大切です。

神経内科は、パーキンソン病の内服調整や、神経疾患の確定診断目的の患者さんが主な対象です。ADL（日常生活動作）の援助を必要とする方も多いため、患者さんとの信頼関係を構築し、ADLの維持・向上を目指した関わりを大切にしています。

このように、様々な疾患の様々な健康レベルへの対応が求められる病棟ですが、チームワークの良さを活かし、日々奮闘中です。高齢独居・老々介護など、退院支援を必要とする患者さんも増えており、プライマリーナースとして、スタッフが積極的にケアカンファレンスの調整も行なっています。今後も、患者さんご家族が安心感をもって治療に臨み、治療後は望む生活を続けていくことを支援できるよう、スタッフみんなで力を合わせて最適な看護を提供していきたいと考えています。



【ハイブリッドER（救急初療室）導入による重症外傷の死亡率改善について】

この度、大阪急性期・総合医療センターでは表題の件につき、学術雑誌『Annals of Surgery』誌に論文受理されました。同誌は、米国外科学会の公式機関誌であり、世界でもっとも頻繁に参照・引用されている外科学雑誌です。

わが国において、交通事故や労働災害などのケガ（外傷）による死亡は、若年者の死亡原因の第一位です。近年、ドクターヘリなどの病院前救護体制の整備や外傷診療の標準化により「防ぎ得た外傷死（Preventable Trauma Death）」は低下傾向にはありますが、依然として多くの重篤な外傷患者が亡くなっている現状があります。

重篤な外傷患者の約9割が出血死とされ、いかに「早く」「的確な」止血治療を行うことができるか？という点が外傷診療の肝となります。的確に出血部位を同定するためのCT検査、そして血管造影によるカテーテル治療や開腹開胸手術などの外科的治療が必須です。しかしながら、従来型の外傷センターでは、救急車から搬入される初療室（ER）、CT検査室、血管造影室、手術室、がそれぞれ別々の離れた場所に位置するのが一般的でした。そのため、その移動に多くの時間がかかってしまうことが、一刻一秒を争う外傷診療の現場において克服すべき大きな課題でした。

大阪急性期・総合医療センター 高度救命救急センターは、重篤な外傷患者の救命に必要な全ての「検査」と「治療」を、速やかに行うことができる「ハイブリッドER」を開発し、世界で初めて2011年8月から運用を開始しました。これは、従来型の外傷センターではそれぞれ距離的に離れた場所に位置する初療室（ER）・診断のためのCT検査室・止血治療のための血管造影室および手術室、を一つの外傷初療室（ハイブリッドER室）に集約したものです（写真）。



今回受理されました学術論文では、ハイブリッドER導入前後の8年間の外傷診療成績を比較検討することにより、その有用性を評価しました。ハイブリッドER導入によりCT検査までの時間は26分から11分、緊急止血処置までの時間は68分から47分、と劇的に短縮することに成功しました。その結果、これまで救命困難とされた重篤な外傷患者のうち、3人に1人が救命できるようになりました。特に、出血が原因で死亡する患者数は、従来の半分以上に抑えることができました。ここ最近、日本全国で普及しつつある「ハイブリッドER」の有用性について学術的に評価した初めての報告になります。

高度救命救急センター長 藤見 聡

掲示板

【公共交通機関ご利用のお願い】

大阪府市共同住吉母子医療センター（仮称）の建設工事に伴い、南側平面駐車場を閉鎖し、中央館南側の立体駐車場及び北側駐車場をご利用いただいております。

駐車スペースが限られるため、入庫するまでに時間がかかる場合があります。

大変ご不便をおかけいたしますが、来院の際には余裕をもってお越しいただくか、公共交通機関をご利用いただきますようお願いいたします。

(URL) <http://www.gh.opho.jp/access.html>

【ボランティア活動のお知らせ】

当センターでは、採血室受付や図書コーナー、入院時の病棟への案内、看護学生のボランティアやクリニクラウンの訪問を受け入れるとともに、リハビリ病棟の長期入院患者さんを対象に、ハンドマッサージ（大阪府鍼灸マッサージ師会の協力）や理髪ボランティア（近隣理髪店の協力）、ピアサポートを実施しています。また、看護学生や保育学生が話し相手や遊び相手のボランティアをしています。

これらの活動状況は、当センターホームページで紹介していますので、是非ご覧ください。また、ボランティアを随時募集していますので、お問い合わせください。

(URL) <http://www.gh.opho.jp/recruit/10.html>

【「医療相談」コールセンターのご利用を ～地域医療連携センター～】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談に、看護師が電話で応じさせていただく「医療相談」コールセンターを開設運用しております。是非お気軽にご利用ください。

電話番号	06-6692-2800	（専用電話回線）
	06-6692-2801	（専用電話回線）
相談日時	月曜日～金曜日	午前9時～午後5時
	（年末年始、土・日・祝日除く）	
相談対象	医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等	
相談員	看護師	

【診察予約変更センター 9診療科において

診察の予約日・時間の変更を電話で受け付けています！】

当センターでは、下記の9診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しています。是非積極的にご活用ください。なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意くださいようお願いいたします。

電話番号 06-6692-1201 (代表) にダイヤルして
「予約変更センター」と言ってください。

受付時間 午後3時～午後5時(平日のみ)

対象診療科 呼吸器内科 消化器内科 糖尿病内分泌内科
皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科 神経内科
脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【入院治療費や外来での検査費用の

概算を予めお知らせするサービスをしています】

当センターでは、入退院センターにおきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用、医療・福祉相談コーナーなどでCT、MRI、RI、エコー検査など検査の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

【医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。引き落としの手数料は不要です。是非ご利用ください。

なお、一般のクレジットカードでのお支払いもできます。

【Facebook ページ開設のお知らせ】

当センターでは、公式 Facebook ページを開設しております。Facebook のアカウントをお持ちでない方でも、ご覧いただけます。

(URL) <https://www.facebook.com/osakageneralmedicalcenter>

※スマートフォンでご覧になる場合は、右のQRコードをご利用ください。



【やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページの「メールマガジン申込」からアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページの検索は、「大阪急性期・総合医療センター」にて可能です。

【眼科の診療のご案内 ～網膜硝子体疾患の専門医師が増えました～】

これまで当センターの硝子体手術は木坊子医師が担当していましたが、7月に山本医師が赴任し、現任、二人体制となりました。昨年度の硝子体手術件数は59件でしたが、今年度はおかげさまで7-9月の3ヶ月間で46件と増加しております。

手術機器は、最新式の硝子体手術装置アルコン社コンステレーション®とZeiss社顕微鏡Lumera700®, 広角観察システムであるResight®を導入しており、25ゲージもしくは27ゲージの極小切開硝子体手術を行っています。

硝子体手術の近年の発展はめざましく、小切開化・低侵襲化がなされています。十数年前までは切開創は20ゲージと大きく、結膜切開が必要でした。そのため、手術に時間を要し、合併症の頻度も高く、侵襲の大きな手術でした。しかし現在は、25ゲージもしくは27ゲージが主流となり、トロカールシステムを併用することで、結膜切開が不要になりました。器具挿入に伴う合併症も激減し、硝子体手術が格段に低侵襲となりました。

主な適応疾患は、黄斑上膜、黄斑円孔、眼内レンズ脱臼、増殖糖尿病網膜症や裂孔原性網膜剥離、増殖硝子体網膜症などです。このたび二人体制となったことで、裂孔原性網膜剥離などの緊急疾患にも迅速に対応可能となりました。症例を問わず、是非ご紹介ください。

硝子体手術は、基本的に入院での対応となります。黄斑上膜、黄斑円孔、眼内レンズ脱臼や増殖糖尿病網膜症など、通常の症例では手術当日に入院し、4泊5日の入院となります。両眼手術の場合、裂孔原性網膜剥離、重症の増殖糖尿病網膜症や増殖硝子体網膜症などの場合は7-10日になります。

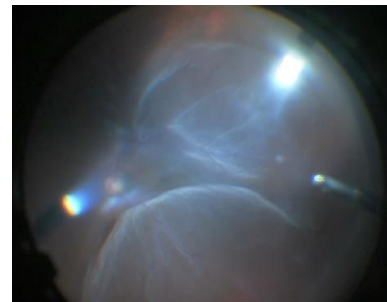
今後も引き続き地域医療に貢献していきたいと存じますので、これまで以上のご紹介をよろしくお願い申し上げます。



左:アルコン社コンステレーション®
右:Zeiss社顕微鏡Lumera700®, resight®



硝子体手術中の前眼部
出血が非常に少なく、低侵襲であることが伺えます。



網膜剥離に対する硝子体手術の様子
広角観察システムにより、眼底の広範囲を見ながら手術することが可能です。

眼科 主任部長 内堀 恭孝

今月の風景



【コメント】

日本三大夜景の一つである摩耶山・掬星台からの夜景です。ケーブルカーとロープウェーを乗り継いで行くことや車で行くこともできますが、登山の達成感を味わって見る夜景も格別です。

(匿名希望 撮影「摩耶山・掬星台からの夜景」(撮影地：兵庫県神戸市灘区))

編集後記

クリスマスが近づくと、街中がクリスマスムード一色になってきます。店頭に並ぶ華やかなクリスマスケーキも魅力的ですが、今年はクリスマスイヴが日曜日なので、クリスマスケーキを手作りするのもいいですね。

<お願い>

読者の皆様からも、今後の表紙と「今月の風景」を飾る写真の投稿をお待ちしております。ご投稿いただける方は下記宛先までお送りください。

【宛先】 kyuseisogo@opho.jp

【注意事項】

- ・投稿写真はご自分で撮影したオリジナルの作品に限ります。
- ・タイトル、撮影日時、場所についてのコメントをメール本文に記載ください。
- ・作品は著作権、肖像権を侵害するおそれのないものに限りします。

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。